

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102442		
法人名	有限会社あいか		
事業所名	グループホームあいか		
所在地	岐阜市鏡島精華2-4-24		
自己評価作成日	平成30年12月21日	評価結果市町村受理日	平成31年3月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=2170102442-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=2170102442-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成31年1月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ホーム創設以来看取りを実施している。近年の社会環境からホームでの看取りを希望されるご家族も多くそれに応えるべく医療、地域との信頼関係を築き体制を整えてきた。今後もご家族ご本人の要望にそった支援を考えていきたい。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームの理念を基に、利用者一人ひとりの自由を重んじ、残存機能を生かすケアを提供している。利用者自らが植物の世話をし、様々な花を咲かせ、ホームの空間に彩りを添えている。来訪の家族や知人に、花の生育ぶりを自慢しながら話す姿が微笑ましく、利用者自身の楽しみと自信にも繋がっている。看護師でもある管理者は、利用者の体調の変化に迅速に対応することで、家族も安心して過ごすことが出来ている。また、職員が3日以上連続して勤務することの無いようシフトを組み、働きやすい環境を整え、職員もまた、開設当初からの人が多く、常に利用者から学ぶ姿勢で、仕事に誇りを持って取り組んでいる。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年度はパンフレットにも事業所理念を入れ事業所内でなくご家族や外部に向けても発信できた。	新たに、パンフレットに理念を記載し、家族や外部にも発信している。基本の5項目を理念に掲げ、目につきやすい玄関入り口にも掲示している。職員は理念を明記した手帳を携帯し、常に意識しながら支援を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常の交流に加え、災害時の避難訓練に近くの薬局や病院の方に参加していただけた。	自治会に加入している。地区の「地域づくり会議」にも参加し、地域の行事などの情報を得て、交流している。災害訓練では、地域商店の協力を得ている。看護学生に研修の場を提供したり、住民が気軽に介護相談できる窓口的役割も果たしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	スタッフが認知症サポーターとして地域の行事に参加することができた。またホームでの日常を紹介するなどの活動ができた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度も定期的に会議を開催し意見交換を行うことができた。特に災害時のサポートについて会議で意見交換し具体的な案を出すことができた。	隔月に開催し、行政、民生委員、地域代表、家族や利用者も参加している。行事や今後の取り組みなどを報告し、意見交換しながら運営に活かしている。認知症に関する雑誌からも、「普通の暮らしとは」「グループホームでの看取り」など、課題を設け意見交換している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき意見交換を行っている。	運営推進会議に行政担当者の参加を得て、介護保険の動向、地域高齢者の実情など、報告を受けながら意見交換をしている。日常的に行政と連携しながら、介護現場の意見を具申するなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年度より身体拘束に関する勉強会が義務付けられ第1回の勉強会を終了した。次回は具体的な事例をもとに学習する予定である。	日頃のケア方法について、具体例を挙げながら、身体拘束に当たらないかを話し合い、拘束の弊害について学び、理解を深めている。委員会の設置、定期的な勉強会も開いている。外部研修にも参加し、その内容を内部研修で伝達しながら、全職員で共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する研修に順次参加し今年度も2名参加した。また本年度内中に第2回の秒協회를予定している。		

岐阜県 グループホームあいか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護センターの方と協力体制を持ちながら現在1名成年後見制度利用について検討している。今後も社会福祉協議会、権利擁護センターの方と連携を取りながら進めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行なっている。今年度特に変更修正した点はありません。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて意見をいただいている。	勤続年数の長い職員が多く、利用者と家族は話しやすい関係であり、運営推進会議や訪問時に、家族の意見や要望を聴いている。また、家族の要望には迅速に対応を行い、その結果を報告して、さらなる信頼関係を構築している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスにて意見交換を行っている。今年度は隔月にて開催した。また代表も参加し意見交換を行った。	代表者、管理者に対する職員の信頼は厚く、運営についても、気軽に意見交換を行っている。職員からの要望は、チームリーダーが把握し改善につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社会労務士とともに職場環境の改善に努めている。今年度は有給休暇も例年以上に取得してもらうことができた。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を立案し、内部研修4回、外部研修1回年度内に行うことができた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会に参加できるよう勤務に配慮している。また勉強会などの情報を事務所に掲示するなど情報提供を行っている。外部研修にて他事業者と交流する機会をもつことができた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談を必ず実施している。本人の思いを聞く機会を適宜設けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族への面談を行い要望をお聞きしている。また困ったことだけでなく今までの生活史を伺いケアに活かしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホームで受け入れ困難な場合などにはほかのサービスへ結び付けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	干し柿の作り方を利用者さんから教えていただいたりするなど先人として尊敬しながら接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との今までの関係なども考慮しながら本人だけでなくご家族の思いに寄り添っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみのお寿司屋、タクシー運転手、美容院、マッサージ屋さんなど関係が途切れないように入居後も利用するなどしている。	家族や親戚の訪問が多い。馴染みの美容院や喫茶店に出かけたり、入居前に利用していたマッサージ師の訪問治療の受け入れなど 馴染みの関係が継続できるよう支援している。個別の外出希望は、家族の協力を得て実現している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性に配慮しながら席を考慮したり、声かけするなどしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お亡くなりになられたあと、ご兄弟にご利用いただけたりする事例があった。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の得意なこと、やりたいことに注目し掃除、野菜の皮むき、カレンダーめくりなど役割をもっていただくような働きかけを行っている。	利用者の思いや意向は、個別対応で時間をかけて把握している。困難な場合は、家族や担当職員からの情報を下に、利用者の思いを汲み取るよう努めている。利用者が自分のできること、やりたいこと、話したいことなどを実現できるよう、支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人の生活史を伺うなど理解に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のペースで生活できるよう細やかに観察し身体状況、精神状況を観察している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状況が変化したときには計画を変更し状況に即した計画としている	介護計画は、家族の意見や要望等を訪問時に聴き、担当職員と意見交換を行いながら、介護記録や医師の意見を踏まえて、作成している。利用者の状態が変化した時や、計画に合わなくなった場合は、適切に介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子などは介護計画に基づき記載時実践している。特記事項などは申し送りノートにて情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院への送迎、日常の買い物など柔軟にサービスを実施している。		

岐阜県 グループホームあいか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今まで利用していたマッサージ屋さんやお寿司屋さんなどを引き続き利用するなど地域とのかかわりを継続できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医が継続できるよう関係機関と協力している。	契約時に、かかりつけ医について事業所の方針を説明し、本人・家族が選択している。協力医は隔週に往診があり、入居前のかかりつけ医を継続利用する場合は、主治医の往診も受け入れている。緊急事態が生じた場合は、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護とはノートに連絡事項を記載してもらったり意見交換を行い情報交換をしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時退院時にはサマリーなどを通し情報の共有を行いスムーズに移行できるよう考慮している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの指針を作成し説明を行っている。またその状況に応じてその時々で意思確認をおこなっている。	入居時に、重度化や終末期の対応についての指針を説明し、同意を得ている。状態が変化した時は早い段階から関係者が十分に話し合い、より良い支援方法について提案している。看取りの段階になった場合には、家族の思いを確認し、医師の意見を聞きながら、支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急対応マニュアル、救急車への緊急カードなどを作成し対応できる体制を整えている。また吸引器なども備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災訓練、年1回の水害訓練をおこなっている。災害時における家族への連絡方法など課題は残っている。	災害訓練は、夜間想定を含めて、避難場所の確認、関係機関への通報、器具の取り扱いなどを実施している。訓練後には、運営推進会議で報告し、助言を得ている。近隣の協力体制も整い、今年は水害対策について話し合いを行い、防災マニュアルも作成している。	行政から、地震・水害について説明を受け、事業所として緊急時の具体的対策について検討するよう指示が出されている。運営推進会議で十分に話し合い、見直しや検討をしながら、さらに訓練に活かせるよう期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇研修などに参加している。一人一人を尊重した言葉かけ、環境づくりを行っている。	利用者のこれまでの暮らし方を、出来る限り継続できるよう、支援している。職員は、日々、利用者が穏やかに過ごせるよう、雰囲気作りに努め、常に傾聴の姿勢で利用者に寄り添いながら、誇りやプライバシーを損ねないよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴時の準備や日常のスケジュールに本人の希望を取り入れ介護する側の好みや先入観をおしつけないように心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを大切にゆっくり行うことを心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧やおしゃれなどをイベントに取り入れている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みや形態を工夫している。ミキサー食、きざみ食など体調に合わせたものを準備している。	近隣から届く旬の野菜も使いながら、朝昼夕の3食とも職員の手作りである。利用者も残存機能を発揮し、できることを手伝っている。利用者の希望メニューを取り入れたり、一人ひとりの状態に合わせた適切な食事形態で、ゆっくりと食事を楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量排せつ量などの観察が必要な利用者さんにはそれらを把握しケアに活かしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを食後実施している。またかかりつけ医と連携をとりながら訪問診療をいただいている。あ		

岐阜県 グループホームあいか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排せつパターンを把握し気持ちよい生活ができるようタイミングをみて誘導するなど一人一人に合わせたケアを提供している。	利用者が、ごく自然に排泄できるようタイミングを図り、声掛けと誘導で支援をしている。夜間は、利用者の希望によっては、ポータブルトイレを設置したり、紙パンツでの対応希望があれば、状態に合わせて使用し、支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状況を毎日把握し対応している。朝食後にトイレに誘導するなどなるべく薬に頼らない方法を実践している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人での個別入浴を実践している。入浴日以外でもあっても本人の希望、体調、汚染状況に合わせて対応している。	週2回の入浴を原則として支援し、利用者の健康状態に配慮しながら、足浴、シャワー浴等でも対応している。職員が介助しながら、安心・安全な入浴支援を行い、利用者とのコミュニケーションを図っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠剤を安易に使用しないよう日中の活動を多くするなど対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服内容の一覧をカルテに張るなど職員が内容を把握しやすい工夫をしている。また誤薬のないよう3回にチェックが入るよう工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や裁縫、食事の準備片づけなど本人の得意を生かした役割をもってもらいながらホームでの生活が充実したものとなるように工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出できない方には空気を入れ替える、玄関まで車いすで散歩するなど工夫している。	天候や利用者の健康状態によって、散歩や外気浴など、個々の状態に適した外出支援を行っている。職員と一緒に、近隣の喫茶店や買い物などにも出かけている。個別の外出希望には、家族の協力を得て外出を楽しんでいる。	



岐阜県 グループホームあいか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の残存能力に合わせたお金の管理をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば事務所にて電話など使用できる環境にある。また携帯電話の持ち込みも自由である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よく生活できるよう新鮮な空気を取り入れるなど配慮している。また花を生けるなど季節を感じられる空間づくりを心がけている。	共用の空間は広く、ベランダは冬場はサンルームになっており、利用者が育てた花が置かれている。明るく開放的で、和室コーナーもあり、利用者が好みの場所でくつろいでいる。除菌もできる空気清浄機が設置され、換気にも注意しながら、心地よく過ごせるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室、リビングなど思い思いに生活できるような自由な環境である。また小さなグループで集まれるような椅子の配置にするなど工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時本人の慣れた寝具や家具を持ち込んでいただいている。	居室は、馴染みの家具や使い慣れた小物を持ち込み、家族の写真、本人の若かりし頃の活動記録、行事の記念写真などを飾っている。居室の掃除は、利用者が、自分で行ったり、職員と共に行うなどで、衛生的である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレがわかりやすいよう大きく表示したり居室に目印をつけるなど工夫している。		